

イチゴ育苗期における生物農薬を利用した防除体系の経済性

福島県農業試験場経営部

平成13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

農業経営－農業経営－育苗－病虫害防除

分類コード 15－01－06230000

2 担当者

新田耕作

3 要旨

化学合成農薬の使用量を半減することを目標に、イチゴ育苗期における天敵及び糸状菌製剤を導入した減農薬防除体系の経済性を検討した。

- (1) 露地採苗での慣行防除体系では、成分数で殺菌剤延べ8剤、殺虫剤延べ7剤の化学合成農薬を使用した。
- (2) 空中採苗での減農薬体系では、天敵及び糸状菌製剤を導入することで化学合成農薬が大幅に削減され、化学合成農薬の使用は殺虫剤の2剤のみであった。
- (3) 減農薬体系でのイチゴ苗生産費用は、高設ベンチの導入により園芸施設費が増加するが、作業時間が大幅に短縮されるため労働費が低減された。その結果、本ほ10aに相当するイチゴ苗生産費用は259千円となり、慣行防除体系に比較して18%(58千円)のコスト削減が図られた。
- (4) 減農薬体系では、生物農薬が化学合成農薬と比較して高額であるが、一方で防除作業時間が6.1時間短縮された。その結果、実証試験では、農業薬剤費の増加と労働費の減少が相殺され、本ほ10aに相当するイチゴ苗の防除費用は減農薬体系が29.9千円となり、慣行防除体系の31.9千円に対して同程度であった。

4 その他の資料等

なし